

講演を通して、命の大切さについて考えを深め交通安全の実践につなげる事例

交通

中学校 全学年 特別活動（学級活動・学校行事）

授業づくりのポイント

- 交通安全に関する意識調査を行い、生徒の実態を把握する。
- 地域の事故状況を把握するために生徒会役員が警察署を訪問し、地域の交通事故の現状について調べ、交通安全における地域の課題を把握し集会等で発表する。
- 基本的な交通法規と自転車の利用について理解を深めるためにワークブックを作成し、年間を通して授業や全校集会での指導等で活用し、交通安全に対する意識を高める。
- 国語科の指導において交通安全標語を作成し校内コンクールを実施したり、美術科の指導において交通安全ポスターを作成し、近隣の小学校や警察署に掲示したりする。
- 交通事故被害者遺族の講話を聴き、交通事故の悲惨さ、その後の生活への影響、加害者の責任等を考えさせる。
- 自転車シミュレーターを活用した体験型交通安全教室を行い、運転時に起こりうる危険を体験させ、主体的に交通安全のルールを守ろうとする態度を養う。

単元について

1 題材名 「いのちの授業－交通事故被害者遺族からの声を受け止める－」

2 目 標

- ・交通事故の現実を理解し、命の大切さを考え、交通ルールを守ろうとする態度を養う。
- ・自転車の特性について理解を深め、安全に乗車しようとする態度を養う。

3 教材化の視点

自転車乗用中の交通死亡事故をなくすことや自転車乗用中の交通違反の対策が社会的に求められている。平成27年6月からは、道路交通法の一部が改正され自転車運転中に危険なルール違反を繰り返した者に対して、自転車運転者講習の受講が義務付けられた。このような状況からも、自転車を日常的に利用することの多い中学生に対して自転車の利用規則を含めた交通安全指導を充実させることが必要である。生徒が主体的に交通安全ルールを守ることができるように、体験を通して理解を深めていく。

指導計画（6時間扱い）

| 時間 | ○主な学習活動 | 安全教育の視点に立った留意点 |
|----|---|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○自転車利用意識調査を実施する。 ○今後の学習の確認をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自転車利用実態と意識を把握するためアンケートを実施する。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○警察署へ訪問をする。  | <ul style="list-style-type: none"> ○市内の事故状況を把握するために警察署を訪問し、聞き取った内容をまとめ、朝礼で全校生徒に報告する。 |

| | | | |
|--|-------------|--|--|
| | | ○自転車利用ハンドブックを作成及び活用する。 ・道路交通法 ・自転車安全利用五則 ・事故による損害賠償責任 ・自転車運転者講習の制度化 ・保険加入の必要性 | ○基本的な交通法規と自転車の利用について認識を深めるためにワークブックを作成し、年間を通して活用する。 |
| | 4 | ○交通安全標語、ポスターの作成及び校内コンクールを実施する。 「まあいいや そんな気持ちが 事故のもと」 「競うなら スピードよりも マナーでしょ」 「自転車は 車の仲間 罪を負う」 | ○交通安全への意識向上をねらい、交通安全標語を作成し校内コンクールを実施する。 |
| | 5 ・ 6 | ○交通安全教室を実施する。 ○交通事故被害者遺族による講演会を実施する。 ○自転車シミュレーターを使用し、事故の危険が予測される場所や状況を体験する。 | ○交通事故の悲惨さ、その後の生活への影響、加害者の責任等を考えさせる。 ○自分自身の運転や友達の運転の様子から交通安全ルールやマナーについての理解を深められるようにする。 |

指導事例（第5・6時／6時間）

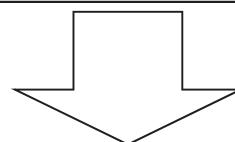
1 ねらい

- ・交通事故の現実を知り、加害者の負う責任と被害者の思いと人権について考え、交通ルールを守ろうとする態度を養う。 【II-2-⑤・II-4-④】
- ・自転車の安全な利用の仕方やマナーを確認・体験することを通して理解を深めるとともに、危険を予測し安全に乗車しようとする態度を養う。 【II-2】
- ・自転車の点検や整備の方法を理解し、実践しようとする態度を養う。 【II-2-④】

2 ポイント

【主体的な学習を促すための手立て】

交通事故被害者の遺族からの話を聞き、交通事故の実情や遺族の悲しみを知り、命を守ることの大切さや交通規則を守ることの重要性を受け止めさせる。



【体験を通して理解を深めさせる手立て】

自転車シミュレーターを活用し、自転車運転中の危険や交通事故を起こさないための注意点について理解させる。

3 指導の実際（第5時／6時間）

| | ○主な学習活動 | ◎支援・留意点 ■評価（評価方法） |
|-----|--|--|
| 導入 | ○交通安全教室の内容を知る。 ○交通安全について、普段意識していることを振り返る。 | ○地域における交通事故状況を踏まえ、自分自身のこととして考えていくことの重要性を伝える。 |
| 展開 | ○交通事故被害者の遺族の方による講演「いのちの授業」を聞く。 演題「生命の大切さを伝えて」 ○交通事故の現実を知る。 ○遺族の思いを理解する。 ○生命の大切さについて考える。 ○被害者の人権について考える。 ○中学生ができることについて考える。 | ○交通事故がもたらす被害について考えるように意識付けを行う。  |
| まとめ | ○考えたこと、感じたことをワークシートにまとめる。 | ■交通事故被害者の思いを受け止め、加害者の負う責任と被害者的人権について考え交通ルールやマナーの大切さについて記述している。 |

4 指導の実際（第6時／6時間）

| | ○主な学習活動 | ◎支援・留意点 ■評価（評価方法） |
|----|---|--|
| 導入 | ○自転車シミュレーターを使用する意義について理解する。 ○普段の自転車運転を思い浮かべながら、操作することを知る。 | ○本時のねらいを伝え、当事者意識をもつて取り組めるようにする。 ○友達の運転の様子から、ルールやマナーについて考えるように伝える。 |
| 展開 | ○自転車シミュレーターを体験する。 (生徒の代表36名) ○スクリーンを見ながら、講師の解説を聞く。 ○様々な場面における危険性を予測する。  ○自転車を運転する上での危険性について質問をする。 | ○日常生活に関わる交通法規などの映像を見ながら、生活の中での注意点を確認させる。 ○あらかじめ、12名×3チーム、体験する生徒を決めておき、スムーズに行えるようにする。 ○体験する生徒以外の生徒は、スクリーンに映し出された映像を見て疑似体験を行う。 ○体験を見た中での疑問や気になったことを挙げさせ、共有する。 ■自転車シミュレーターを運転したり、友達の運転を見たりして、交通ルールの遵守やマナーを守ることの大切さを理解している。 ○講師に答えてもらうことで、解決策を導き出せるようにする。 |

まとめ

- 代表の生徒が感想を発表する。
- 考えたこと、感じたことをワークシートに書く。

■身近な乗り物である自転車の危険性について具体的に挙げている。加害者になる可能性について触れながら、ルールの遵守について記述している。

5 生徒のノートの記述から

●「いのちの授業」を聴いて、交通事故は改めて怖いなと思いました。いつ、どこで、どんなことが起こるのか分からないです。ある日突然、自分の命が失われてしまう。それは自分かもしれないし、身近な人かもしれないと思い、本当に怖かったです。

今回、お話しを聴いて、被害者にも加害者にもなりたくないと思いました。そして、もし、交通安全を意識せずに運転するような人がいたら、止められる人になりたいと思います。

●いつ、どこで、自分や自分の周りの人が、事故や事件で命を落とすか分からない状況で、今、自分は生きているんだと思いました。

また、実際に家族を亡くした人の話を聞くのは、今回が初めてだったので、交通事故が引き起こす悲惨さを知ることができて、すごくよい話を聴けたと思いました。

●今回の話を聞いて、自分は今まで命を軽く見過ぎていた、命の大切さを改めて実感しました。

生きたくても生きられなかっただ人が、たくさんいることを知りました。今、私たちが生きていることは「奇跡」なんだと言うことを忘れないようにしていきたいです。

●交通事故被害者の遺族の方の詩の中から、我が子に先立たれることが、親にとっての最大の不幸なのだと感じました。

また、我が子が加害者になってしまったら、その親は地獄を生きなければならぬと言っていました。その通りだと思います。

●今日は、19歳という若さで亡くなられた息子をもつ交通事故被害者の遺族の方の話を聴きました。どんなに生きたくても生きられない人がたくさんいます。今日、話を聞いた19歳の方は、飲酒運転の自動車にはねられて亡くなりました。このような事故はあってはならないことです。

身の回りのことに気を付けて自転車などに乗りたいし、人の命を奪うような事故やいじめが少しでもなくなればいいと思いました。

生徒の変容

自転車の利用と交通規則について理解を深め、自転車は車両であるという認識と加害者にもなり得るという危機意識をもつことができた。